環境モデル都市提案書（様式1）

タイトル	日本一暑いまちによる多治見市地球温暖化対策地域推進計画の実施	
提案団体	多治見市	人口：１１７，５０８人
担当者名及び連絡先	多治見市役所　市民環境部　環境課 氏名　藤井　憲 電話番号／　　　０５７２－２２－１１１１　内線１３３１ ファックス番号／　０５７２－２５－８２２２ メールアドレス　　ken-f@city.tajimi.gifu.jp	

1 全体構想

1-１環境モデル都市としての位置づけ

平成１９年８月４０．９℃の日本最高気温を当市で記録した。これは、当市が四方を山に囲まれた盆地で熱が溜まりやすいという地形的要因と真夏日が連続した異常気象が要因であると考えられている。この最高気温を記録したことにより市民の中で多治見の暑さや地球温暖化について考える基盤が整ってきた。このような状況の中で、平成２０年３月に、中期及び長期の温室効果ガスの削減目標を掲げた地球温暖化対策地域推進計画を策定した。この計画は、従来の温暖化対策だけでなく、日本最高気温を記録した当市としての高気温対策を盛り込んだ多治見独自の推進計画とした。また、この計画では、市だけでは目標が達成できず、市組織の横断的体制や市民・事業者による三者の協働が必要であると訴えている。この計画を実施することにより、温暖化・高気温対策だけでなく、慢性的な渋滞の解消、失われた緑の復元や実施市民団体の育成を図る。市民や事業者と協働により、市民や事業者の意識改革をねらう。

1-２現状分析

1-２-① 温室効果ガスの排出実態等

部門別排出量

部門	排出量（千t）		1990 年比
	1990 年度	2004 年度	
産業部門	738.8	423.1	-42.7%
民政部門	173.7	226.8	30.6%
運輸部門	191.6	273.6	42.8%
廃棄物部門	10.3	17.3	68.0%
合　計	1,14.5	940.7	-15.6%

1990 年に大きな割合を占めていた産業部門が、地場産業である陶磁器製造業の落ち込みにより大幅に減少している。このため、京都議定書で約束した６%削減は達成した状況となっている。

1-２-② 関係する既存の行政計画の評価

計画の名称及び策定時期	評価
第２次環境基本計画（現在策定中）	第１次基本計画策定次には、問題視されていなかった温室効果ガス削減について記述予定
地球温暖化地域推進計画（Ｈ２０．３月）	市民や事業者と連携した重点プロジェクトを設定し、温室効果ガス排出量について中期目標 2004 年比２%削減、長期目標 1990 年比５０%削減の目標を設定
緑の基本計画（Ｈ１５．３月）	「緑のマスタープラン」や「風の道構想」を含めた緑による総合的なまちづくり施策を強化。市街地の緑被率３０%以上、市街地周辺の丘陵地の緑の割合を３０%以上とする目標を設定。

<table>
<tr><td colspan="3">1-３削減目標等</td></tr>
<tr><td>1-３-①
削減目標</td><td colspan="2">長期目標　2050 年には、1990 年比５０％削減
中期目標　2012 年度における排出量削減目標　2004 年比２％削減
産業部門　2004 年値を維持
民政家庭部門　2004 年比１３．８％削減
民政業務部門　2004 年値を維持
運輸部門　2004 年値を維持
廃棄物部門　2004 年値を維持
製造業の落ち込みにより産業部門が大幅に削減しているため現状維持とし、家庭における排出量の抑制により、市全体として２％削減を目指す。</td></tr>
<tr><td rowspan="8">1-３-②
削減目標の達成についての考え方</td><td colspan="2">市民・事業者・市がそれぞれ取り組みを行っているが、３者が協働することにより、相乗効果を生み、さらなる削減を達成するために中心となる６項目の事業を重点プロジェクトとして以下に掲げる。地域推進計画の進行管理及び効果測定の役割を地球温暖化策地域協議会が担う。</td></tr>
<tr><td>取組み方針</td><td>削減の程度及びその見込みの根拠</td></tr>
<tr><td>二酸化炭素・見える化プロジェクト
実態を反映する多治見式排出量算定方法を検討</td><td>正確な排出量の把握</td></tr>
<tr><td>エコな暮らし推進プロジェクト
日常生活を少し変化させることにより、大きな削減効果を期待</td><td>身近な温暖化に対する取り組みの推進</td></tr>
<tr><td>環境産業推進プロジェクト
産官学の連携により環境配慮製品の開発をし、地域産業の発展に貢献</td><td>環境と経済の両立</td></tr>
<tr><td>エコ交通プロジェクト
自動車の利用方法や公共交通機関の積極的利用を推奨</td><td>エコ交通の推進</td></tr>
<tr><td>虎渓用水活用プロジェクト
現在利用されていない古くからある虎渓用水を再活用し、水辺空間の創出</td><td>水辺の創出で、暑い多治見を冷ます</td></tr>
<tr><td>風の道構想実現プロジェクト
市内を十字に走る道路・鉄道・河川を緑化することにより、緑のトンネルとして冷風を市街地へ取り込む</td><td>山から冷気を取り込む、風の道を創る</td></tr>
<tr><td>1-３-③
フォローアップの方法</td><td colspan="2">地球温暖化対策地域推進協議会の役割
１　重点プロジェクトの推進体制づくり
２　重点プロジェクトの実施</td></tr>
</table>

	３　重点プロジェクト以外の新しい取り組みの検討 ４　計画の見直し ５　計画の振興管理と評価 二酸化炭素・見える化プロジェクトにより実態に即した排出量算定方法を確立し、三者の取り組みを評価するとともに、排出量の再分析を行い弾力的に目標値の見直しを行う。

1−４地域の活力の創出等
１，３００年の歴史を持つ美濃焼に支えられた陶磁器製造の技術を活かし、もう一方の地場産業であるタイルに高気温対策という新しい価値を付加することにより、新しい市場の開拓など地場産業の発展活性化を目指す。また、市民にはエコな暮らしをすることにより、従来の自家用車や電気・ガス・灯油に頼る生活様式の変更を促し、家庭での光熱費の削減や慢性的な交通渋滞の解消を図る。

※必ず改ページ

2 取組内容（※取組内容の整理にあたっては「１－3－②削減目標の達成についての考え方」に記載された取組内容の整理の枠組みを基礎とした柱に沿って取組を分類すること。）		
2－１　二酸化炭素・見える化プロジェクト		
2－１－①　取組方針		
現在のガイドラインによる二酸化炭素排出量算定方法では、統計資料から排出量を算定しているため、事業所における省エネ効率のよい操業や自動車でのエコドライブが反映されない方法となっている。この問題を解決するために、それぞれの取り組みが評価される多治見独自の排出量算定方式の検討を行う。		
2-1-②　5 年以内に具体化する予定の取組に関する事項		
取組の内容・場所	主体・時期	削減見込み・フォローアップの方法
(a) 生活の中で出ている二酸化炭素の量を把握し、排出量算定方法の調査に協力する。	市民	環境家計簿の活用
(b)産業別の原単位把握など、排出量算定方法の調査に協力	事業者	算定方法の見直し
(c)市民・事業者とともに排出量算定方法の検討を実施	市	目標値の見直し
2-1-③課題		

※必ず改ページ

2-2. エコな暮らし推進プロジェクト		
2-2-①. 取組方針		
便利であることになれてしまった生活環境を少し変えることにより、温暖化防止の効果が得られる。この取り組みを積極的に行うために、実施した市民や事業者にとってメリットのあるシステム作りを検討。		
2-2-②. 5年以内に具体化する予定の取組に関する事項		
取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
(a)身近なことから温暖化に対する取り組みを実施 Ｎｏ！レジ袋・マイバック持参率８０%の実施 今住んでいる家を見直し省エネに努める住環境の見直し	市民	レジ袋辞退率及びマイバック持参率の検証
(b)市民が主体となって行う温暖化の取り組みを支援	事業者	市民にとってメリットのある事業の検討
(c) 市民が主体となって行う温暖化の取り組みを支援 二酸化炭素削減に効果があることをするとポイントが貯まる多治見共通のポイントシステム（CO2CO2（コツコツ）ポイント）の導入の検討。 高効率給湯器設置補助	市	ポイントシステムの検討
2-2-③課題		

※必ず改ページ

2-3. 環境産業推進プロジェクト

2-3-①取組方針

製造工程の見直しや、事務所・店舗で使用されている光熱費の見直しをすることが二酸化炭素の削減だけでなく経費の削減にもつながる。地場産業である陶磁器製造技術を活かした保水性タイル、壁面緑化に適したタイル、太陽熱反射タイルの開発・製造が二酸化炭素の削減や高気温対策に役立つばかりでなく、地域経済の振興に繋がる。この環境に与える負荷を低減させるという環境と経済の両立に対する支援を実施。

2-3-②5年以内に具体化する予定の取組に関する事項

取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
(a)事業者の活動を理解・協力するとともに環境配慮製品の購入に努める	市民	
(b)環境に配慮した事業経営とともに環境に優しい製品を開発 環境に配慮した経営の実施	事業者	
(c)環境と経済の両立に関する研究・活動を支援	市	

2-3—③課題

※必ず改ページ

2-4.　エコ交通プロジェクト		
2-4-①取組方針		
大きな問題となっている交通渋滞に関し、少しでも緩和するために自動車の利用方法や移動の方法を変化させて交通量を減らす、道路整備だけに頼らない渋滞緩和策を実施。		
2-4-②5 年以内に具体化する予定の取組に関する事項		
取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
(a)自家用車から公共交通機関への積極的な転換 たじみエコ交通推進ウィークの実施	市民	
(b)業務用車両の効率的な運用 エコ通勤推進デーの拡大	事業者	
(c)道路整備だけに頼らない渋滞緩和策の検討 公共交通機関の充実	市	
2-4—③課題		

※必ず改ページ

2-5. 虎渓用水活用プロジェクト

2-5-①取組方針

明治時代に造られた田畑の灌漑用水が、現在では利用されなくなり暗渠化されているため、これの開渠化と水辺空間の整備を進め、水面からの蒸発量を増やし周辺気温の上昇を防ぐとともに、多治見駅北土地区画整理事業と併せて親水空間・憩いの場の創出、良好な修景の演出を図る

2-5-②5 年以内に具体化する予定の取組に関する事項

取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
(a)市とともに虎渓用水の調査・検討を実施	市民	
(b)水辺の環境に配慮した事業活動の推進	事業者	
(c)市民とともに虎渓用水の有効利用を検討	市	

2-5―③課題

※必ず改ページ

2-6. 風の道構想プロジェクト		
2-6-①取組方針		
これまで失ってきた緑を市民・行政が一体となって確保するために、市内を十字に走る国道・鉄道。河川を「風の道の軸」として緑化することにより、緑のトンネルをつくり、市域を取り囲む四方の山々から冷風を市街地へ導入するという「風の道構想」を実現。		
2-6-②5 年以内に具体化する予定の取組に関する事項		
取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
(a)新たに樹木を植えるとともに、今ある緑地を保全	市民	
(b)敷地内の緑化を進めるとともに、今ある緑地を保全	事業者	
(c)風の道が形成されるように、重点的な緑化対策を実施 公共用地植栽事業の実施 民有地緑化助成制度による緑化支援	市	
2-6-③課題		

必ず改ページ

アクションプラン作成のために平成20年度中に行う事業等の内容	
取組の内容	主体・時期
地球温暖化対策地域協議会の設置	市 平成２０年６月
あっちっちサミットの開催	市・市民 平成２０年８月

取組体制等	
行政機関内の連携体制	全部署横断的な温暖化対策及び高気温対策会議での課題検討
地域住民等との連携体制	地球温暖化対策地域推進協議会での計画の進行管理・検証の実施
大学、地元企業等の知的資源の活用	2-3　環境産業推進プロジェクトの実施について、産学官の連携による名古屋工業大学及び多治見市商工会議所の技術提供を受け、高気温対策タイルの製品化開発及び研究を行う。

※　5年以内に具体化する予定の取組については、その実施箇所を一覧できる地図を添付すること

※必要に応じて適宜、行や欄の追加、注記・例示の削除を行ってよいが、様式1、2の全体の枚数は10枚程度とすること。また、様式に入力する文字は10.5ポイント以上とすること。

（市区町村名）環境モデル都市提案書（様式２）

Ⅰ－１　環境もモデル都市としての位置づけ

平成19年8月40．9℃の日本最高気温を当市で記録した。これは、当市が四方を山に囲まれた盆地で熱が溜まりやすいという地形的要因と真夏日が連続した異常気象が要因であると考えられている。この最高気温を記録したことにより市民の中で多治見の暑さや地球温暖化について考える基盤が整ってきた。このような状況の中で、平成20年3月に、中期及び長期の温室効果ガスの削減目標を掲げた地球温暖化対策地域推進計画を策定した。この計画は、従来の温暖化対策だけでなく、日本最高気温を記録した当市としての高気温対策を盛り込んだ多治見独自の推進計画とした。また、この計画では、市だけでは目標が達成できず、市組織の横断的体制や市民・事業者による三者の協働が必要であると訴えている。この計画を実施することにより、温暖化・高気温対策だけでなく、慢性的な渋滞の解消、失われた緑の復元や実施市民団体の育成を図る。市民や事業者と協働により、市民や事業者の意識改革をねらう。

１－２．現状分析

（1）温室効果ガスの排出実態等

部門別排出量

部門	排出量（千t）		1990年比
	1990年度	2004年度	
産業部門	738.8	423.1	－42.7％
民生部門	173.7	226.8	30.6％
運輸部門	191.6	273.6	42.8％
廃棄物部門	10.3	17.3	68.0％
合　計	1,14.5	940.7	－15.6％

1990年に大きな割合を占めていた産業部門が、地場産業である陶磁器製造業の落ち込みにより大幅に減少している。このため、京都議定書で約束した6％削減は達成した状況となっている。

（2）関係する既存の行政計画の評価

・計画の名称及び策定時期　　評価

・第2次環境基本計画（現在策定中）

第１次基本計画策定次には、問題視されていなかった温室効果ガス削減について記述予定

・地球温暖化地域推進計画（H20．3月）

市民や事業者と連携した重点プロジェクトを設定し、温室効果ガス排出量について中期目標2004年比2％削減、長期目標1990年比50％削減の目標を設定

・緑の基本計画（H15．3月）

「緑のマスタープラン」や「風の道構想」を含めた緑による総合的なまちづくり施策を強化。市街地の緑被率30％以上、市街地周辺の丘陵地の緑の割合を30％以上とする目標を設定。

１－４．地域の活力の創出等

１，３００年の歴史を持つ美濃焼に支えられた陶磁器製造の技術を活かし、もう一方の地場産業であるタイルに高気温対策という新しい価値を付加することにより、新しい市場の開拓など地場産業の発展活性化を目指す。また、市民にはエコな暮らしをすることにより、従来の自家用車や電気・ガス・灯油に頼る生活様式の変更を促し、家庭での光熱費の削減や慢性的な交通渋滞の解消を図る。

１－３．削減目標等

（1）削減目標

長期目標　2050年には、1990年比50％削減

中期目標　2012年度における排出量削減目標　2004年比2％削減

産業部門　　2004年値を維持　　民政家庭部門　2004年比13．8％削減

民政業務部門　2004年値を維持　　運輸部門　　2004年値を維持

廃棄物部門　2004年値を維持

製造業の落ち込みにより産業部門が大幅に削減しているため現状維持とし、家庭における排出量の抑制により、市全体として2％削減を目指す。

（2）削減目標の達成についての考え方

市民・事業者・市がそれぞれ取り組みを行っているが、3者が協働することにより、相乗効果を生み、さらなる削減を達成するために中心となる6項目の事業を重点プロジェクトとして以下に掲げる。地域推進計画の進行管理及び効果測定の役割を地球温暖化策地域協議会が担う。

（　①取組み方針　　② 削減の程度及びその見込みの根拠）

・二酸化炭素・見える化プロジェクト　①実態を反映する多治見式排出量算定方法を検討　②正確な排出量の把握

・エコな暮らし推進プロジェクト　①日常生活を少し変化させることにより、大きな削減効果を期待　②身近な温暖化に対する取り組みの推進

・環境産業推進プロジェクト　①産官学の連携により環境配慮製品の開発をし、地域産業の発展に貢献　②環境と経済の両立

・エコ交通プロジェクト　①自動車の利用方法や公共交通機関の積極的利用を推奨　②エコ交通の推進

・虎渓用水活用プロジェクト　①現在利用されていない古くからある虎渓用水を再活用し、水辺空間の創出　②水辺の創出で、暑い多治見を冷ます

・風の道構想実現プロジェクト　①市内を十字に走る道路・鉄道・河川を緑化することにより、緑のトンネルとして冷風を市街地へ取り込む　②山から冷気を取り込む、風の道を創る

（3）フォローアップの方法

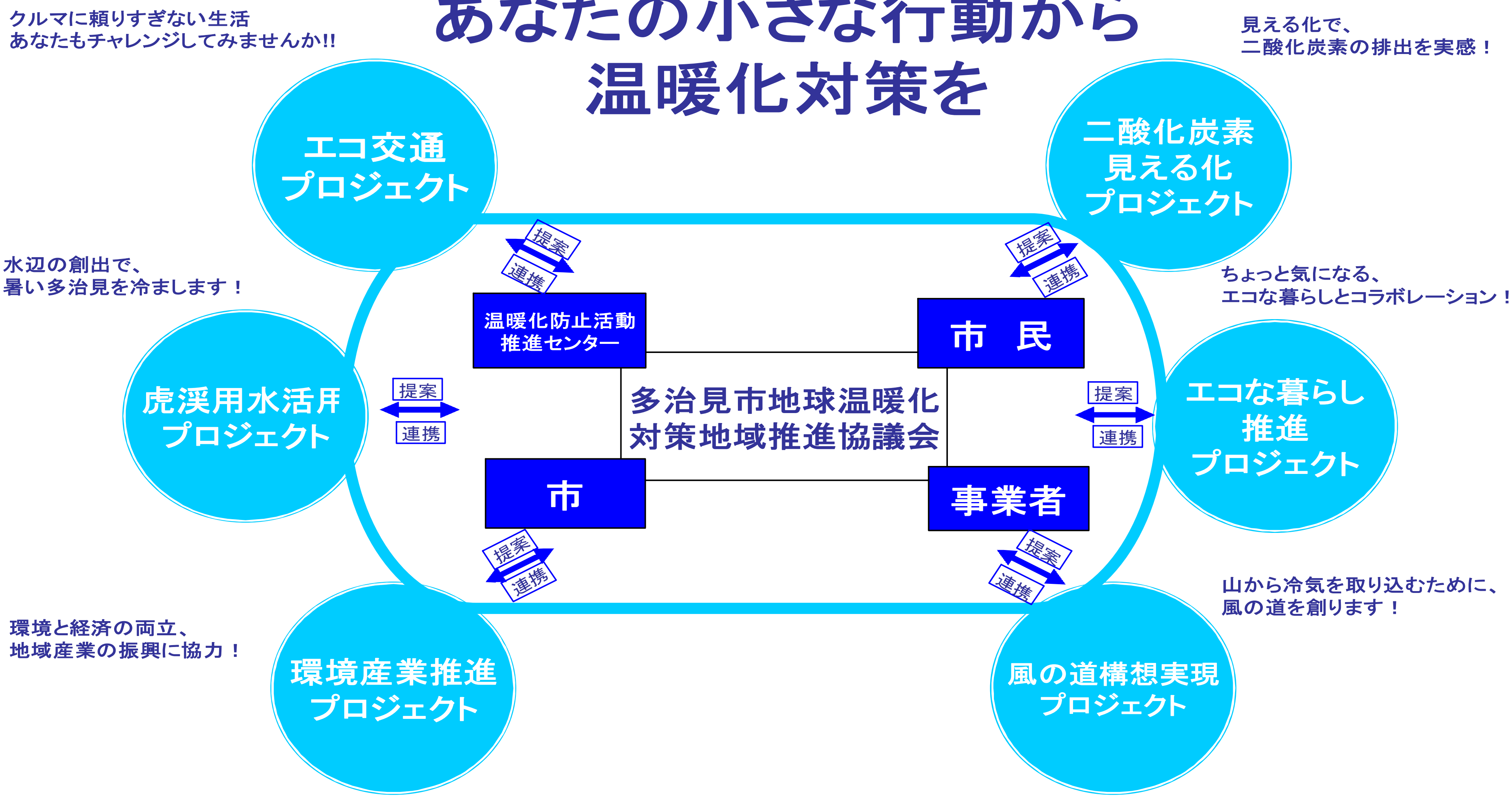
地球温暖化対策地域推進協議会の役割

１　重点プロジェクトの推進体制づくり　　２　重点プロジェクトの実施

３　重点プロジェクト以外の新しい取り組みの検討　　４　計画の見直し

５　計画の振興管理と評価

二酸化炭素・見える化プロジェクトにより実態に即した排出量算定方法を確立し、三者の取り組みを評価するとともに、排出量の再分析を行い弾力的に目標値の見直しを行う。

多治見市地球温暖化対策地域推進計画

あなたの小さな行動から温暖化対策を